

平成19年度第1回長崎県がん診療連携協議会幹事会議事録

日時：平成19年6月28日（木） 18:00～20:10

場所：長崎大学医学部・歯学部附属病院  
第1会議室 【管理棟 5階】

- 議題1 長崎県がん診療連携協議会要綱および幹事会運営要領（資料1）  
幹事長から、資料1に基づき長崎県がん診療連携協議会要綱および幹事会運営要領について説明あり、審議の結果、承認された。
- 議題2 協議会幹事会の委員紹介について（資料2）  
幹事長から、資料2に基づき、がん診療連携協議会幹事会委員の紹介があり、引き続き各幹事及び事務局の自己紹介が行われた。
- 議題3 第1回全国がん診療連携拠点病院連絡協議会報告（資料3）  
幹事長から、資料3に基づき、第1回全国がん診療連携拠点病院連絡協議会について、がん対策基本法、がん対策推進基本計画、国立がんセンター対策情報センターの取り組み等について報告があった。
- 議題4 がん診療連携協議会幹事会の各WGの現状報告  
各WGのチーフから現状報告が行われた。
- (1) がん登録部門（資料4）  
松本がん登録WGチーフ出張のため、宇佐診療情報管理室長（長崎大学病院）から、資料4に基づき、各地域拠点病院におけるがん登録部門WGアンケート集計結果について報告がなされた。委員から次の意見がだされた。
- ① がん登録の標準化・共通化、精度向上を図っていくべきである。
  - ② 現在、国レベルの研修会に申込を行っても定員が少なく研修できない状態であるので、県内の研修会を実施してほしい。
  - ③ 県より、放射性影響研究所（早田先生）から県内の研修会を是非行いたい旨の申込を頂いている。拠点病院の研修会として是非加えたいとのことであった。
- (2) 化学療法部門（資料5）  
福島化学療法WGチーフから、資料5に基づき、6月14日開催の化学療法部門WGについて、次の報告があった。
- 入院患者さんの中に占めるがん患者の割合が30%であり、外来化学療法を施行しているがん腫は、乳がん、結腸・直腸、悪性リンパ腫が多数を占めている現状である。県立島原病院、日赤長崎原爆病院、および長崎大学病院では、新しい外来化学療法室を設置中である。
- なお、マニュアルについては、安全管理部が作成中であり、またレジメの登録も現在検討委員会で準備中である旨の報告があった。
- 委員から次の意見がだされた。
- ① 針刺し当番制に関して、将来的にはがん専門看護師、がん認定看護師

にお願いできないか？（埼玉医大の例）。そのような体制作りを協議会としても検討してほしい。

- ② 臨床腫瘍専門医、がん専門薬剤師、がん専門看護師の育成が急務である。
- ③ 化学療法から緩和ケアまで広い範囲に及ぶがん診療において、病院と地域の診療所、医師会との連携を深めていく必要がある。

### 3 緩和医療部門（資料6）

北條緩和医療WGチーフから、資料6に基づき緩和医療の現状と問題点について報告があった。緩和ケアチームにおいて、大学病院のみに専従医師と認定看護師がおり、加算がとれていること、緩和ケア外来はいずれの拠点病院にもないことが報告された。質の高い看護ケアを行うには認定看護師資格をもった専従看護師が必要であり、認定看護師の養成が急務であること、かかりつけ医を中心として緩和医療の提供体制が不十分であることが報告された。

委員から次の意見がだされた。

- ① 県医師会として在宅医療に関する研修会を行っている。
- ② 市医師会として、Dr ネットを中心に「がん対策のために戦略研究」として緩和ケアプログラムにおける地域介入研究が行われる予定である。
- ③ 拠点病院から在宅への病院連携が重要である

### 4 相談支援・診療連携部門（資料7）

川崎相談支援・診療連携WGチーフから、資料7に基づきがん相談支援に関する拠点病院のアンケート集計結果について報告があった。

委員から次の意見がだされた。

- ① 相談内容を、共通のシートを使用しデータベース化することで、各拠点病院間で共有化できる。
- ② 各相談支援センターのみで情報収集することは困難であるため、「がん診療連携協議会」の名称を使用して医師会、訪問看護の協会等へ働きかけができないか。
- ③ 拠点病院間での情報交換（治療可能ながん腫）を密に行っていききたい。
- ④ 全国規模の研修会は、受講回数や人数に制限が生じるため、県内・地域拠点病院での開催が望まれる。

### 5 研修研究部門

澤井研修・研究WGチーフから、別紙資料に基づき、地域がん診療連携拠点病院の医療従事者を対象とした研修会を、7月14日（土）15:30～ポンペ会館で実施する旨の報告があった。第2回目の拠点病院研修会は来年1月頃開催予定。

がんプロフェッショナル養成プランに関連して次の意見がだされた。

- ① 医学部の学生にこの講座が適用できないか？ 医学生にがん診療に関して早期から教育し、興味を持たせて最終的に臨床腫瘍専門医を増やしてほしい。

### 6 放射線治療部門（資料8）

林放射線治療WGチーフから、資料8に基づき長崎県の放射線治療の現

状について報告があった。施設が都市部に集中していること、治療に関わる各種の専門資格者の施設間での格差、治療実績では県北に密封小線源治療の可能な施設がないこと、定位放射線照射など特殊治療の可能な施設が限られていることなどが報告された。がん診療の均てん化を図る意味でも、新規機器の導入を前向きに検討してほしいとのことであった。

議 題 5 「長崎県におけるがん情報サービス向上に向けた地域懇話会」について

幹事長から、資料に基づき説明があり、地域懇話会を7月14日(土)医学部記念講堂で実施するので、出来るだけ多く(200人)の出席者をお願いしたい。患者会・家族・医療従事者等の意見交換会・質疑応答に重点をおいている旨の説明があった。

なお、地域懇話会に先立ち、13日に国立がんセンターがん対策情報センターによる県内がん診療連携拠点病院の訪問が行われるので、特に相談支援、診断支援(画像診断、病理診断)においては、現場視察等周知徹底の程お願いしたいとのことであった。長崎県としては、地域懇話会に関する広報を記者クラブを通して対応していきたいとのことであった。

議 題 6 がん診療連携拠点病院機能強化事業について

長崎県医療政策課長田係長より長崎県のがん対策体制について資料に基づき説明があった。

また、がん患者やその家族に対するがん療養に関するアンケートを実施する予定であること(拠点病院へ依頼)、地域がん診療連携協議会の設置を依頼する予定であることが報告された。

なお、今後の県がん対策推進計画策定スケジュールについても報告があった。